

障害のある人のニーズに応える公園緑地ユニバーサル化情報に関する研究

緑環境景観マネジメント研究科 美濃 伸之



キーワード

障害者、公園緑地、バリアフリー、ユニバーサルデザイン

研究概要

公園緑地においては、地形や環境的な制限を受けることが多く、利用者によっては活動を楽しむことが難しいケースがある。このような場合には、いわゆるユニバーサル化情報の事前提供が有効であることが知られ、現場でのサインやホームページによる関連情報の提供が推奨されてきた。一方、ユニバーサル化情報は総じて限られた利用者を対象としたものであることが避けられない。そのため、有用性は認識されているものの、情報の適切さを確保し、その定期的な更新を実施することが、労力やコスト、管理者の動機づけの観点から難しい場合が多い。そこで、本研究では、障害者による情報収集の実態を明らかにし、公園緑地の開示内容との関連性を分析することにより、ユニバーサル化情報が主流化するための要件について検討している。



アピールポイント

現有の公園緑地ユニバーサル化情報の大半は、駐車場や多目的トイレの有無といった施設の仕様を記しただけのものにとどまる傾向が強い。そのため、障害者等にとっては野外活動の利用可否が事前に理解できないことが多く、緑環境を訪れたものの実際には利用が難しいというケースが少なくない。本研究はこのような課題を念頭に、ユニバーサル化情報の持続的な運用のあり方を検討するものである。

応用分野

公園緑地のユニバーサル化情報における課題は、国内の観光地等でも同様であり、研究成果はそれらへの応用が可能であると考えられる。